

## 「教員養成教育の評価等に関する調査研究」フォーラム

### 「教員養成教育の『質保証』システムを創る」



東京学芸大学では、教員養成教育の質的水準の向上のため、平成22～25年度の4年間の予定で「教員養成教育の評価等に関する調査研究（教員養成評価プロジェクト）」として教員の実践的指導力を養成するカリキュラムやそのための組織運営体制などの評価のあり方について調査研究を推進している。

3年目に当たる平成24年度までの成果を報告するとともに、関係者の意見を聞いて広く今後の検討課題を探るべく、3月20日にTKPガーデンシティ品川でフォーラム「教員養成教育の『質保証』システムを創る」を開催し、学内外から合わせて112名が参加した。

第一部では村松泰子学長の挨拶に続き、文部科学省高口努教職員課長による基調講演「『学び続ける教員像』と教員養成教育の質保証」が行われ、教員養成教育の質保証に向けた取組みへの期待が述べられた。引き続き東京学芸大学岩田康之教授がプロジェクトの概要説明、東京学芸大学佐藤千津准教授及び渡邊恵子准教授が「教員養成教育の日本型ア kredィテーション・システムの構築に向けて」と題してプロジェクトの検討内容報告を行った。

それらを踏まえて第二部では、東京学芸大学岩田康之教授がコーディネータとなり、高口努教職員課長のほか、仙台白百合女子大学牛渡淳教授、追手門学院大学田中耕二郎教授、山形県教育委員会長南博昭委員長、愛知教育大学松田正久学長をパネリストとして「優れた教員養成機関をどうサポートするか」というテーマで、パネルディスカッションが行われた。ここでは、ア kredィテーション基準試案や組織のあり方についての今後の課題、大学と教育委員会との連携の重要性、ア kredィテーション・システム案と課程認定との関係等活発な議論が交わされた。

参加者（国公立大学関係者、教育委員会関係者等）からは、本調査研究に期待する声や意見が多数寄せられた。